

め全国箏曲祭にて最高賞(賢順賞)受賞。現代音楽フェスティバル MaerzMusik より招請され、ベルリンにて演奏する。母校・中学校にてアウトリーチを行う。釧路音楽協会より記念表彰。平成24年度別海町文化奨励賞受賞。同年、地元別海町にて木村麻耶リサイタル開催。その他海外公演も多数。在学中に箏、十七絃箏、二十五絃箏を野坂恵子氏、滝田美智子氏に師事。現在、釧路音楽協会賛助会員。宮城会会員。生田流宮城社教師。4plus メンバー。

ロドリゴ・シーガル(作曲): 1971年メキシコ市生まれ。メキシコ市の音楽研究・リサーチセンター(CIEM)作曲学部を卒業し、ロンドン市立大学のエレクトロ・アコースティック・コンポジション学部博士課程修了。マリオ・ラヴィタスによる作曲ワークショップに参加。デニス・スマレイ、ジャヴィエール・アルヴァレス、フランコ・ドナトーニ、ジュディス・ウィアード、マイケル・ジャレル、アレハンドロ・ヴェラスコ、ファン・トリーゴスらに師事する。メキシコ国立大学の音楽学部でポスト・ドクターを修了。現在、メキシコ音楽とソニック・アーツセンター (CMMAS) 所長(www.cmmas.org)。カルチャー・マネージメントのディプロマも保持し、メキシコ内外で芸術的、教育的な活動をしている。

伊藤美由紀(作曲): 愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程修了後、コロンビア大学(ニューヨーク)で作曲をトリストラン・ミュライユに師事、博士号を取得。文化庁芸術家在外研修員として IRCAM(フランス国立音響音楽研究所)にて研鑽を積む。世界各国のコンクール、音楽祭に入賞、入選し、国内外で作品の発表を続けている。また、ニンフェアール、JUMP の代表として自主企画公演を定期的に展開。ニンフェアール第10回公演は、第14回佐治敬三賞受賞。《時の砂》が ALCD80 からリリース。ミラノのスヴィーニ・ゼルポーニ出版社からフランコ・エヴァンジェリスティ国際作曲コンクール優勝作品《古代の息吹をしのぶ。。。》の楽譜出版。執筆活動として、『音楽現代』に特集記事や公演批評を掲載。メキシコのコンピュータ音楽雑誌『Ideas Sonicas』に自作品の分析論文(英語)が掲載。名古屋芸術大学、千葉商科大学、愛知県立芸術大学大学院、愛知県立大学、四川音楽学院などで後進の指導にもあたっている。 <http://www.miyuki-ito.com>

田中範康(作曲): 東京生まれ。国立音楽大学附属高等学校を経て、国立音楽大学作曲科・器楽科(オルガン専攻)を卒業。作品は、日本、アメリカ、韓国などの放送メディアや、ドイツ、フランス、北欧、ベルギー、韓国、アメリカ、メキシコなど世界各国の音楽祭などで、著名なアーティストの演奏により広く紹介されているほか、《室内楽作品集 Vol. I》(VMM2011、1994)、《室内楽作品集 Vol. II》(VMM2036、2002)、《田中範康作品集》(ALCD-87、2011)、《田中範康作品集 II》(ALCD-103、2014)に収録されている。また、《Twilight》、《Air》がマザーアースより楽譜出版されている。現在、名古屋芸術大学音楽学部、同大学院音楽研究科教授。日本現代音楽協会会員、日本作曲家協議会会員、日口音楽家協会会員。

～ギターと箏で聴く日本・メキシコ～

2016年12月15日(木)19:00開演(18:30開場)
渋谷公演通りクラシックス

佐藤紀雄(ギター)

木村麻耶(二十五絃箏)

ロドリゴ・シーガル(ゲスト作曲家)

後援: 在日メキシコ合衆国大使館、名古屋芸術大学音楽学部、CMMAS



=====プログラム=====

- 1) エベルト・バスケス:《浮世絵～庄野の驟雨》(2013) ギターと二十五絃箏の為の
Hebert VAZQUEZ: *Una lluvia repentina en Shono* for guitar and 25-string koto
- 2) 伊藤美由紀:《絃の独白》(2014) ギターと二十五絃箏の為の
Miyuki ITO: *Strings' Soliloquies* for guitar and 25-string koto
- 3) 光崎検校:《秋風の曲》 Kengyo Mitsuzaki: *Akikaze no kyoku*
- 4) 田中範康:《饗宴の時》より第1章と3章 (2013) ギターとエレクトロニクスの為の
Noriyasu TANAKA: *Sparkling in the Space III* (I. & III) for guitar with electronics

休憩

- 5) エベルト・バスケス:《地獄の天使》(2013) ギターとエレクトロニクスの為の
Hebert VAZQUEZ: *Angel del abismo* for guitar with electronics
- 6) 伊福部昭:《古代日本旋法による 踏歌》(1967) 二十五絃箏の為の
Akira IFUKUBE: *Toka, Cantilena Ballabile sul Modo Antico di Giappone*
- 7) 伊藤美由紀:『プロメテウスの光』より《I.発火点》(2011) ギターとエレクトロニクスの為の
Miyuki ITO: *I.Flash Point from Prometheus' Light* for guitar with electronics
- 8) マヌエル・ポンセ:《エストレリータ》(小さな星) ギターと二十五絃箏バージョン
Manuel PONCE: *Estrellita* for guitar and 25-string koto
- 9) ロドリゴ・シーガル:《シナプシス》(2008) ギターとエレクトロニクスの為の
Rodrigo Sigal: *Sinapsis* for guitar with electronics

佐藤紀雄 (ギター)/Norio SATO, guitar
木村麻耶 (二十五絃箏)/Maya KIMURA, 25-string koto

8. マヌエル・ポンセ:《エストレリータ》(小さな星) ギターと二十五絃箏バージョン

ポンセは、パリでデュカスに師事し、フランス近代音楽と自国メキシコの伝統音楽を融合させた美しい作品を多く残し、メキシコを代表する作曲家となる。この曲は歌曲として作られたが、その美しいメロディーは、バイオリンやギター—その他多くの楽器に編曲されて演奏されてきた。本日はギターと二十五絃箏による二重奏によって演奏される。

(佐藤紀雄)

9. ロドリゴ・シーガル:《シナプシス》(2008) ギターとエレクトロニクスの為の

この作品は、アンサンブル・ノマドと、音楽監督でありギタリストの佐藤紀雄氏により委嘱された。演奏者が、インストラクションとコンピュータが送る音に反応し、前もって制作されているエレクトロニクスを補うことで、異なったアプローチを展開することが、作品の目的である。リアルタイムでプロセスを変化させ、コンピュータからギター奏者への責任を変化しながら、シナプシスは、毎回、同じ箇所でも盛り上がるが、異なった手段で音を生み出す。何年間もかけて達成された佐藤紀雄氏の演奏版は、特別な感情と喜びを与えてくれる。

(ロドリゴ・シーガル)

=====プロフィール=====

佐藤紀雄(ギター): 1951年生まれ。1971年(現)東京国際ギターコンクール優勝。以後、ギター演奏と指揮活動を広範囲に行ってきた。ギター演奏においてはクラシックレパートリーの他、武満徹、高橋悠治、近藤譲、松平頼暁、福士則夫、その他多くの作品の初演、また指揮者としても内外の新しい作品の初演を含め数多く演奏している。海外からの招聘も多く、これまでにパリ、ニューヨーク、ハンブルク、ロンドン、メルボルン、北京、メキシコ、デンマーク、フィンランド、エストニア、ブルッセル、アントワープ、ハバナ、イタリアなどでリサイタルや各地のアンサンブルと共演してきた。1997年にアンサンブル・ノマドを結成し音楽監督として毎年定期演奏会を開いてきた。またアンサンブル・ノマドでも海外から多く招かれ、ハッダースフィールド音楽祭、ガウデアムス音楽週間、モレリア音楽祭など主要な音楽祭で演奏してきた。1990年、京都音楽賞(実践部門賞)。1994年、中島健蔵賞。1996年、朝日現代音楽賞。2002年、アンサンブル・ノマドとして第二回佐治敬三賞を受賞。ギター・ソロのCD、アンサンブル・ノマドのCDなど多数リリースしている。桐朋芸術短期大学、青山学院短期大学、また日大芸術学部各ギター科で後進の指導にあたっている。

木村麻耶(箏): 北海道出身。三歳より、箏・三絃・二十絃箏を橋本はるみ氏に師事。第28回全道三曲コンクール第1位。北海道新聞社賞受賞。をはじめ幼少より数々のコンクールで優勝、入賞する。第15回日独青少年コンサートに選ばれ、ドイツにて10日間に渡り、各地演奏する。ピエン・ナーレ(ロシア)出演。第35回釧路新人演奏会に出演、奨励教育長賞を受賞。セルバンデス文化センターにてギター・箏・尺八リサイタルを開催。財団法人地域創造邦楽地域活性化事業に参加し、熊本県の各地を回りアウトリーチやコンサートを行う。第17回賢順記念く

=====プログラムノート=====

【第1部】

1. エベルト・バスケス《浮世絵～庄野の驟雨》(2013) ギターと二十五絃箏の為の

箏とギターの為のこの作品は、日本の浮世絵木版画に基づいた現在続行中の室内楽作品シリーズに含まれている。タイトルは、歌川広重の『東海道五十三次』の版画シリーズの有名な作品からつけられており、京都と江戸をつなぐ東海道にある45番目の宿場である庄野宿での突然、雨に降られた旅人一行を描いた作品である。私の音楽は、土砂降りから雨宿りの場所を探そうとしている人々の不安さのような、落ち着かない状況を描こうと試みている。この作品は、佐藤紀雄氏と木村麻耶氏に捧げられている。(エベルト・バスケス)

2. 伊藤美由紀:《絃の独白》(2014) ギターと二十五絃箏の為の

この作品では、ギターの最低音である E 音を基音とした16倍音をもとに、コンピュータで音にひずみをかけて計算し、圧縮、拡張し新構築された倍音構成の5パターンのヴァリエーションからのピッチ素材を、作品に使用している。複雑な音色を創造するために、コンピュータでの計算を 1/4 音(半音より狭い微分音)までと設定しているために、箏とギターの最初のチューニングに1/4音を取り込んでいる。分析結果の構成音の全てを縦の響きとして利用することは、今回の編成では不可能であるため、横の時間軸に再構成している。箏とギターの打楽器的なノイズ音と混ぜ合わせて音を濁らせることでピッチを揺らし微分音的な効果を試みている。絃楽器特有の、ひずんだ音色、透明感のあるハーモニクスなどで絃の独白を表現している。佐藤紀雄さんに、拙作の『プロメテウスの光』からギターソロの作品を、去年から今年にかけて度々再演していただき、その演奏にインスピレーションを得て、今回新たな試みをしている。(伊藤美由紀)

3. 光崎検校:《秋風の曲》

作曲者の光崎検校は、三味線との合奏に頼らない純粋の箏曲の復活を目指して、革新的な試みを多く行った。この曲もその一つで、段物形式の前奏に組歌形式の歌を合わせ、調絃法も第一絃と第二絃をオクターブにして、全曲の音楽的基底となる「シャン」を透明な合音とするなど、新しい形式と内容を創作した。歌詞は蒔田雲所の作詞で、白楽天の『長恨歌』に依っている。本日は抜粋で演奏致します。(木村麻耶)

一唄一

求むれど得難きは、色になんありける。さりとは楊家(ようか)の女(め)こそ、妙(たへ)なるものぞかし。
翠(みどり)の華の行きつ戻りつ、いかにせん、今日九重(このへ)にひきかえて旅寝の空の秋風。
鶯(えんおう)の瓦は、霜の花匂ふらし、翡翠のふすま、一人着て、などか夢を結ばん。

=====プログラムノート=====

【第1部】

1. エベルト・バスケス《浮世絵～庄野の驟雨》(2013) ギターと二十五絃箏の為の

箏とギターの為のこの作品は、日本の浮世絵木版画に基づいた現在続行中の室内楽作品シリーズに含まれている。タイトルは、歌川広重の『東海道五十三次』の版画シリーズの有名な作品からつけられており、京都と江戸をつなぐ東海道にある45番目の宿場である庄野宿での突然、雨に降られた旅人一行を描いた作品である。私の音楽は、土砂降りから雨宿りの場所を探そうとしている人々の不安さのような、落ち着かない状況を描こうと試みている。この作品は、佐藤紀雄氏と木村麻耶氏に捧げられている。(エベルト・バスケス)

2. 伊藤美由紀:《絃の独白》(2014) ギターと二十五絃箏の為の

この作品では、ギターの最低音である E 音を基音とした16倍音をもとに、コンピュータで音にひずみをかけて計算し、圧縮、拡張し新構築された倍音構成の5パターンのヴァリエーションからのピッチ素材を、作品に使用している。複雑な音色を創造するために、コンピュータでの計算を 1/4 音(半音より狭い微分音)までと設定しているために、箏とギターの最初のチューニングに1/4音を取り込んでいる。分析結果の構成音の全てを縦の響きとして利用することは、今回の編成では不可能であるため、横の時間軸に再構成している。箏とギターの打楽器的なノイズ音と混ぜ合わせて音を濁らせることでピッチを揺らし微分音的な効果を試みている。絃楽器特有の、ひずんだ音色、透明感のあるハーモニクスなどで絃の独白を表現している。佐藤紀雄さんに、拙作の『プロメテウスの光』からギターソロの作品を、去年から今年にかけて度々再演していただき、その演奏にインスピレーションを得て、今回新たな試みをしている。(伊藤美由紀)

3. 光崎検校:《秋風の曲》

作曲者の光崎検校は、三味線との合奏に頼らない純粋の箏曲の復活を目指して、革新的な試みを多く行った。この曲もその一つで、段物形式の前奏に組歌形式の歌を合わせ、調絃法も第一絃と第二絃をオクターブにして、全曲の音楽的基底となる「シャン」を透明な合音とするなど、新しい形式と内容を創作した。歌詞は蒔田雲所の作詞で、白楽天の『長恨歌』に依っている。本日は抜粋で演奏致します。(木村麻耶)

一唄一

求むれど得難きは、色になんありける。さりとは楊家(ようか)の女(め)こそ、妙(たへ)なるものぞかし。
翠(みどり)の華の行きつ戻りつ、いかにせん、今日九重(このへ)にひきかえて旅寝の空の秋風。
鶯(えんおう)の瓦は、霜の花匂ふらし、翡翠のふすま、一人着て、などか夢を結ばん。

4. 田中範康:《饗宴の時》より第1章と3章(2013) ギターとエレクトロニクスの為の

本作品は3つの章から成り立っているが、間断なく、続けて演奏される。1章はエレクトロニクスの響きの中に、随所にギターが絡んでいく序章的な意味合いの強い章である。3章は、あらかじめギター奏者によって録音されたパッセージを様々な手法でエディットしたものに、リアルタイムで演奏されるギターとのアンサンブル中心に、音楽が展開されていく。

(田中範康)

[第2部]

5. エベルト・バスケス:《地獄の天使》(2013) ギターとエレクトロニクスの為の

この作品は、佐藤紀雄氏に捧げられている。テープパートは、メキシコのモレリア市の CMMAS のスタジオで、ホルヘ・アルバのテクニカル・サポートのもと、作曲者本人とギタリストのフランシスコ・ジルによって演奏して録音したギターサウンドに基づいて作られている。奈落の天使アバドンに言及するヨハネの黙示録の一節があるが、むしろ、ダンテの《新曲》の中のベアトリーチェを考えていた。ウエルギリウスによって案内されたあとに、9層の地獄を通じて詩人を天国へ導いたのは彼女である。

(エベルト・バスケス)

6. 伊福部昭:《古代日本旋法による 踏歌》 二十五絃箏の為の

伊福部昭は、日本の音楽らしさを追求した民族主義的な力強さが特徴の数多くのオーケストラ曲のほか、映画音楽の作曲家として知られている。踏歌とは、足を踏みならして歌い舞う集団舞踊。隋・唐の民間行事で、日本に入り、歌垣と結びついて古代、宮中で行われた。歌に巧みな男女を召して、年始の祝詞を歌い舞わせたもの。男踏歌は、正月の14日または15日に、女踏歌は16日に行った。

(木村麻耶)

7. 伊藤美由紀:『プロメテウスの光』より《I.発火点》(2011) ギターとエレクトロニクスの為の

この作品は、愛知芸術文化センターの委嘱により、ダンスコラボレーション作品としてクラリネット、ギター、オンド・マルトノ、エレクトロニクスのために制作した4つのセクションからなる《プロメテウスの光》の第1セクションである。プロメテウスは、ギリシャ神話に登場する人間に火を与えた神であり、それ故に、原子力は「第2のプロメテウスの火」とさえ言われる。作品タイトルは、プロメテウスが願ったであろう将来につながる可能性への想いを込めて、『プロメテウスの光』としている。全体を通してD音を中心に動き、最終音もD音に到達する。D音は、Direction(方向)、Destination(目的)、Distortion(歪曲)、Dream(夢)の頭文字に関連して作品の中心音としている。第1セクションのギターとエレクトロニクスのための《発火点》は、初演者でもある佐藤紀雄氏により、単独の作品として世界各国で再演されている。エレクトロニクスパートは、佐藤紀雄氏の協力により前もって録音した素材を加工している。

(伊藤美由紀)

4. 田中範康:《饗宴の時》より第1章と3章(2013) ギターとエレクトロニクスの為の

本作品は3つの章から成り立っているが、間断なく、続けて演奏される。1章はエレクトロニクスの響きの中に、随所にギターが絡んでいく序章的な意味合いの強い章である。3章は、あらかじめギター奏者によって録音されたパッセージを様々な手法でエディットしたものに、リアルタイムで演奏されるギターとのアンサンブル中心に、音楽が展開されていく。

(田中範康)

[第2部]

5. エベルト・バスケス:《地獄の天使》(2013) ギターとエレクトロニクスの為の

この作品は、佐藤紀雄氏に捧げられている。テープパートは、メキシコのモレリア市の CMMAS のスタジオで、ホルヘ・アルバのテクニカル・サポートのもと、作曲者本人とギタリストのフランシスコ・ジルによって演奏して録音したギターサウンドに基づいて作られている。奈落の天使アバドンに言及するヨハネの黙示録の一節があるが、むしろ、ダンテの《新曲》の中のベアトリーチェを考えていた。ウエルギリウスによって案内されたあとに、9層の地獄を通じて詩人を天国へ導いたのは彼女である。

(エベルト・バスケス)

6. 伊福部昭:《古代日本旋法による 踏歌》 二十五絃箏の為の

伊福部昭は、日本の音楽らしさを追求した民族主義的な力強さが特徴の数多くのオーケストラ曲のほか、映画音楽の作曲家として知られている。踏歌とは、足を踏みならして歌い舞う集団舞踊。隋・唐の民間行事で、日本に入り、歌垣と結びついて古代、宮中で行われた。歌に巧みな男女を召して、年始の祝詞を歌い舞わせたもの。男踏歌は、正月の14日または15日に、女踏歌は16日に行った。

(木村麻耶)

7. 伊藤美由紀:『プロメテウスの光』より《I.発火点》(2011) ギターとエレクトロニクスの為の

この作品は、愛知芸術文化センターの委嘱により、ダンスコラボレーション作品としてクラリネット、ギター、オンド・マルトノ、エレクトロニクスのために制作した4つのセクションからなる《プロメテウスの光》の第1セクションである。プロメテウスは、ギリシャ神話に登場する人間に火を与えた神であり、それ故に、原子力は「第2のプロメテウスの火」とさえ言われる。作品タイトルは、プロメテウスが願ったであろう将来につながる可能性への想いを込めて、『プロメテウスの光』としている。全体を通してD音を中心に動き、最終音もD音に到達する。D音は、Direction(方向)、Destination(目的)、Distortion(歪曲)、Dream(夢)の頭文字に関連して作品の中心音としている。第1セクションのギターとエレクトロニクスのための《発火点》は、初演者でもある佐藤紀雄氏により、単独の作品として世界各国で再演されている。エレクトロニクスパートは、佐藤紀雄氏の協力により前もって録音した素材を加工している。

(伊藤美由紀)